

授業科目名		担当講師名	対象学年
看護を知る実習 I		学内教員 実習指導教員	1 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所	学期
実習	1 (32)	県立大島病院、大島郡医師会 病院、和光園、施設、訪問看護	前期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。		
学修内容	看護が行われている場を知り、看護師の役割と看護の実際を理解する。		
到達目標	1. 看護が行われている場を知る。 2. 様々な場で行われている看護を知る。 3. 看護師の役割を知る。 4. 看護の実際について理解できる。 5. 患者と患者を取り巻く人々とコミュニケーションを図ることができる。 6. 看護師になるための今後の学習課題が明確にできる。		
事前学習	看護学概論「看護の概念」、「看護の対象」基礎看護技術「コミュニケーション」		

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目 (8 時間)	実習オリエンテーション (学内)
2 日目・3 日目 (16 時間)	(臨地) 1. 施設オリエンテーションを受ける 2. 看護師とともに行動 (シャドウイング) する。 3. 患者と患者を取り巻く人々とコミュニケーションを図る。 4. カンファレンスを行い、毎日の振り返りをする。
4 日目 (8 時間)	まとめ (学内) 1. シャドウイングでとらえた看護師の行動や学びを、実習グループでまとめる。 2. 各実習グループの学びを全体に発表し、全員で共有する。 3. 5 名グループを編成し、グループワークを通して看護の実際を理解する。 4. グループワーク後、全体に発表する。 5. 実習終了後、今後の学習課題をレポート提出する。
履修上の要件	看護学概論の看護の概念、看護の対象 共通基本技術のコミュニケーション
テキスト、教材、 参考書	基礎看護学実習要項 系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論、基礎看護技術 I・II 医学書院
成績評価の方法	ルーブリック評価
備考	

授業科目名		担当講師名	対象学年
看護を知る実習Ⅱ		学内教員 実習指導教員	1 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所	学期
実習	1 (40)	県立大島病院 大島郡医師会病院	後期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。		
学修内容	入院生活の環境を理解し、対象とのコミュニケーションを図る。 看護師の活動を通して、行われている援助の必要性を理解し、日常生活行動の援助を安全・安楽に実施する。		
到達目標	1. 対象の入院生活の環境が理解できる。 2. コミュニケーション技術を活用し、対象とのコミュニケーションを図ることができる。 3. 看護の基礎技術を活用して対象の観察ができる。 4. 看護師の活動を通して、行われている援助の必要性が理解できる。 5. 日常生活行動の援助を安全・安楽に実施ができる。 6. 対象の反応を捉えて報告と記録ができる。 7. 看護師としての態度・姿勢を考える。		
事前学習	共通基本技術・コミュニケーション、日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目	午前：病棟内オリエンテーション、受け持ち患者の説明、看護師の援助場面の同行 午後：コミュニケーション、カンファレンス
2 日目	午前：看護師の援助場面の同行、コミュニケーション、バイタルサイン測定 午後：振り返り（援助場面に同行したことをもとに援助の必要性を考える）
3 日目	看護師の援助場面の同行、コミュニケーション、バイタルサイン測定 日常生活行動の援助の実施、報告、カンファレンス
4 日目	午前：看護師の援助場面の同行、コミュニケーション、バイタルサイン測定 日常生活行動の援助の実施、報告 午後：振り返り（行った援助の振り返り）、実習反省会
5 日目	まとめ（学内実習） 1. リフレクション（対象の入院生活の環境、行われている援助の必要性、日常生活行動が安全・安楽に実施できたか） 2. リフレクションした内容を発表し、学びを共有する
履修上の要件	看護を知る実習Ⅰは終了している
テキスト、教材、参考書	基礎看護学実習要項 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 医学書院
成績評価の方法	ルーブリック評価
備考	

授業科目名		担当講師名	対象学年
看護過程実習		学内教員 実習指導教員	2年次
授業形態	単位(時間)	実習場所	学期
実習	2(80)	県立大島病院 大島郡医師会病院	後期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。		
学修内容	問題解決技法を活用し、対象の看護上の問題を抽出する。患者にあった計画に基づき安全・安楽に援助を実施・評価して次の実践につなげる。		
到達目標	1. 看護に必要な情報を収集できる。 2. 情報を分析し看護問題を抽出できる。 3. 患者にあった看護計画を立案できる。 4. 計画に基づき、安全・安楽に実施できる。 5. 実践した結果を評価し、次の実践につなぐことができる。 6. 看護師としての態度・姿勢を学び、自己の学習課題を明確にできる。		
事前学習	看護過程の展開、ヘンダーソンの看護理論		

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目	学内にて実習オリエンテーションを行う。受け持ち患者様の事前学習
2～4日目	臨地実習 午前：病棟オリエンテーション、受け持ち患者様の情報収集 午後：情報の整理、振り返り
5日目	学内実習にて受け持ち患者様の情報の読み取り 看護問題の抽出、看護計画の立案
6日目～9日目	臨地実習 午前：受け持ち患者様の看護計画の実施、ケースカンファレンス、実習反省会 午後：実施後の振り返り
10日目	学内実習：リフレクション（看護過程の展開について・対象の反応から自分の関りについて）、実習のまとめ
履修上の要件	看護を知る実習Ⅱは終了していること。
テキスト、教材、参考書	基礎看護学実習要項 系統看護学講座 基礎看護学1・看護学概論／医学書院 系統看護学講座 基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座 基礎看護学3・基礎看護技術Ⅱ／医学書院 ヘンダーソン看護理論の実践 ノーベルヒロカワ ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ノーベルヒロカワ
成績評価の方法	評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
地域の実習		学内教員		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (40)	市町村、診療所 社会福祉協議会	後期	月～金	8:30～15:30
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	地域の特性、地域に暮らす人々の自助・互助、地域包括ケアシステム 地域における保健活動・健康予防活動、多職種連携・協働				
到達目標	・地域に暮らす人々を理解する（多様な価値観・健康・生活） ・人間と環境は相互に作用し合い、健康や暮らしに影響することを理解する ・地域共生社会が目指す地域包括ケアシステムを理解する ・地域における多職種連携・協働の重要性を理解する ・地域に必要とされる看護師像を考える				
事前学習	地域の特性 関係法令				

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目～4 日目	1 日目から、各実習先市役所、役場、社会福祉協議会、診療所での実習を行う 2 日間：市町村 1 日間：社会福祉協議会 1 日間：診療所 各事業について同行・参加し市町村、社会福祉協議会、診療所の地域活動を学ぶ。
5 日目	最終日に学内実習にて、リフレクションや学んできたことをまとめる。
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	臨地実習要項 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の基礎 医学書院
成績評価の方法	ループリック評価
備考	各実習施設への通学手段は学生各自で確保しておく 施設の駐車場を利用する場合は、事前に施設へ連絡が必要

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅看護論実習		益田 祐子		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (80)	大島郡医師会訪問看護ステーション 生協訪問看護ステーションあまみ ネリヤ訪問ステーション	前期 後期	月～金	8:30～15:30
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	訪問看護ステーションの機能と役割、制度、サービスの流れ 療養者の多様な生活と価値観、生活環境や家族への視点 在宅看護のアセスメント（療養者と家族のニーズ、住環境、社会資源、家族・介護力のアセスメント、経済力）在宅看護過程の展開				
到達目標	地域で療養生活を送る対象と家族を理解し、在宅療養が継続できる支援を学ぶ				
事前学習	地域保健、介護保険等の法律について 在宅療養を支える看護Ⅰ、在宅療養を支える看護Ⅱにおける履修内容				

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日 目	1 日目は学内で、訪問看護ステーション実習について、教員のオリエンテーションを受ける
2～9 日 目	1. 学生は1 事例受け持たせていただき、利用者の看護過程を展開する 2. ケースカンファレンスを実施する 3. 受け持ち以外の利用者宅を、訪問看護ステーションのスタッフとともに訪問し、訪問看護の実践を学ぶ 4. 訪問看護ステーション実習最終日に反省会を行う
10 日 目	最終日に、学内実習にてカンファレンス・リフレクションを行う
履修上の要件	地域を知る実習を習得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項、系統別看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤、地域・在宅看護の実践、 医学書院
成績評価の方法	在宅看護論実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	各実習施設への通学手段は、学生各自で確保しておく 施設の駐車場を利用する場合は、事前に施設へ連絡が必要 感染症の状況により変更の可能性があります

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人・老年看護学実習Ⅰ		林 なおみ 他		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(80)	県立大島病院 大島郡医師会病院	後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	回復期またはリハビリテーション期にある患者の援助を通し、障害の適応また、日常生活の自立に向けた看護を学ぶ				
到達目標	1. 回復期またはリハビリテーション期にある患者の身体的、精神的状態を理解できる。 2. 患者の健康障害と日常生活行動への影響が判断できる。 3. 日常生活行動の自立を目指した援助が安全に実施できる。 4. 患者がリハビリテーションに意欲的に取り組めるように援助できる。 5. 障害受容への心理的サポートができ、患者のメッセージを聴くことができる。 6. 退院支援にむけて多職種連携が理解できる。				
事前学習	運動器疾患患者の看護、脳神経疾患患者の看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
	1日目：学内実習（実習オリエンテーション、事前学習） 2日目～病棟オリエンテーション・受け持ち患者の情報収集。 受け持ち患者の情報を整理し看護問題を抽出。 看護問題にそって援助計画を立案・援助の実施・評価を行う。 2週目前半に受け持ち患者のケースカンファレンスを行う。 退院支援等を通じて多職種連携を学ぶ。 10日目：学内実習（事例の振り返りとまとめ）
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院 系統看護学講座別巻Ⅱ リハビリテーション看護
成績評価の方法	成人・老年看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人・老年看護学実習Ⅱ		林 なおみ 他		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(80)	県立大島病院 大島郡医師会病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	慢性に経過し生涯コントロールが必要な成人及び老年の患者への援助を通して看護実践に必要な知識、技術、態度を学ぶ				
到達目標	1. 患者の発達段階をふまえて、身体的・精神的・社会的な特徴を理解する。 2. 患者の健康状態に応じた日常生活援助ができる。 3. 患者のセルフケア能力を向上する援助ができる 4. 患者に必要な社会資源を活用して、継続的に療養生活を支える方法を考える。				
事前学習	循環器疾患患者・呼吸器疾患・内分泌疾患の看護 他				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～10日目	1日目： 学内実習（実習オリエンテーション、事前学習） 2日目～病棟オリエンテーション・受け持ち患者の情報収集。 受け持ち患者の情報を整理し看護問題を抽出。 看護問題にそって援助計画を立案・援助の実施・評価を行う。 2週目前半に受け持ち患者のケースカンファレンスを行う。 退院支援等を通じて社会資源の活用・多職種連携を学ぶ。 10日目：学内実習（事例の振り返りとまとめ） カンファレンス「慢性期患者の特徴と看護の特徴」
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院
成績評価の方法	成人・老年看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人・老年看護学実習Ⅲ		林 なおみ 他		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2 (80)	県立大島病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	生命危機状態、手術を受ける患者を通してクリティカルなケアを必要とする成人の患者および老年の患者の看護を学ぶ				
到達目標	1. 生体機能に急激な変化をきたしている患者の身体的・精神的状態を理解する。 2. 生体機能に急激な変化をきたしている患者の生活の援助ができる。 3. 生体機能に急激な変化をきたしている患者の苦痛の緩和ができる。 4. 回復を阻害する因子を明らかにして、回復促進に向けた援助ができる。 5. 手術を受ける患者の麻酔及び手術侵襲を理解し、回復に向けた援助ができる。 6. 生命維持管理・救命救急時の援助が理解できる。				
事前学習	周手術期、クリティカルケア				

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目～10 日目	1 日目：学内実習（実習オリエンテーション、事前学習） 2 日目～病棟オリエンテーション・受け持ち患者の情報収集。 受け持ち患者の情報を整理し看護問題を抽出。 看護問題にそって援助計画を立案・援助の実施・評価を行う。 2 週目前半に受け持ち患者のケースカンファレンスを行う。 手術見学、救命救急センター見学実習を行う。 ME 機器の見学を行う。 救命救急センター、手術見学、退院支援等を通じて多職種連携を学ぶ。 10 日目：事例の振り返りとまとめ
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論、クリティカルケア看護学 医学書院
成績評価の方法	成人・老年看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
老年看護学実習		脇田 真由美 中島 久代		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	実習場所	学期	曜日	時限
実習	2 (80)	虹の丘・奄美佳南園 めぐみの園 住用の園・芦穂の里	前期	月～金	8:30～15:30
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	地域や施設で生活する高齢者が医療・福祉とどのような関わりがあり、看護師として多職種とどのような連携をとり高齢者に関わるかを学ぶことを目的とする。				
到達目標	1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化をとらえることができる。 2. 老年者の基本的な生活行動および一日の過ごし方を把握できる。 3. 老年者とよりよい人間関係を形成することができる。 4. 老年者の健康障害・生活上の問題について理解し、日常生活援助ができる。 5. 施設・福祉事業などの継続看護の視点から多職種との連携の図り方を理解できる。 また、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割が理解できる。 6. 老年者の生きがいをつまみ、自己の老年観について考えることができる。				
事前学習	高齢者の身体・精神・社会的特徴、認知症のある高齢者への関わりとコミュニケーション方法、介護保険制度、老人保健、老人福祉法、介護老人保健施設及び介護老人福祉施設の特徴、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、在宅介護支援センター及び居宅介護支援センターの役割、地域包括ケアシステム、摂食嚥下障害のある高齢者の看護、				

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目～ 10 日目	1. 1 日目、10 日目は学内実習 2. 事前学習を提出する。 3. 実習の進め方 1) 施設実習では、1 人を受け持ち、コミュニケーションを図りながら、残存機能維持を考慮した日常生活援助を行う。 2) 高齢者の基本的な生活行動および一日の過ごし方を知り、人間関係を深め、健康障害・生活上の問題について理解し、QOL 向上に向けた日常生活援助を行う。 3) 通所リハ・通所介護・認知症対応型共同生活介護・支援センターで多職種との連携を学び、生活環境およびソーシャルサポートシステムについて理解するとともに看護師としての役割を理解する。 4) 援助を通して対象者の生き方・考え方を知り、高齢者をどのようにとらえているのかを理解する。
履修上の要件	
テキスト 教材 参考書	領域別実習要項 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院
成績評価の方法	老年看護学実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の評価
備考	

授業科目名		担当講師名	対象学年		
小児看護学実習Ⅰ		濱田 麻美	3年次		
授業形態	単位(時間)	実習場所	学期	曜日	時限
実習	1(40)	小宿保育園 春日保育園 のぞみ園	前期・後期	月～金	8:00 15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である				
学修内容	健康な小児・健康障害がある小児の成長・発達、家族の関わりを学ぶ。				
到達目標	1. 小児各期における身体的・精神的・社会的な成長・発達の特徴を理解できる 2. 健康な小児、健康障害のある小児の日常生活を理解し、成長・発達への援助方法を学ぶ				
事前学習	乳幼児の成長発達、転倒転落のアセスメント 学習や遊び等				

授業計画

No.	授 業 内 容
学内実習(1日間)	1. 保育園・療育施設のオリエンテーション 2. カンファレンスを行い学びを共有する
保育所(3日間)	1. 健康な小児の成長・発達を理解し、望ましい保育について学ぶ
療育施設(2日間)	1. 障害児の成長・発達について理解を深め、保育者との関わりを学ぶ
履修の要件	
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学専門Ⅱ 小児看護学概論・臨床総論 医学書院 系統看護学専門Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院
成績評価の方法	小児看護学実習Ⅰ 評価表に基づいて、出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名	対象学年		
小児看護学実習Ⅱ		濱田 麻美	3 年次		
授業形態	単位 (時間)	実習場所	学期	曜日	時限
実習	1 (40)	県立大島病院 小児科病棟 小児科外来 NICU	前期 後期	月～金	8 : 00 15 : 00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である				
学修内容	小児各期における特徴を理解し、健康障害を持つ小児やその家族の個別性に応じた看護が実践できる基礎的知識、技術、態度を学ぶ				
到達目標	1. 小児の成長発達段階をふまえ健康障害の特徴を把握し、対象を理解できる 2. 健康障害や入院生活が小児と家族に及ぼす影響を理解できる 3. 小児各期に応じた看護技術を小児の人権を尊重し実施できる 4. 小児を取り巻く医療、保健、福祉の連携の中で小児看護の役割を考察する				
事前学習	小児の代表的な疾患 患児家族の看護、乳幼児の成長発達、バイタルサイン測定 乳児の身体計測 プレパレーション 転倒転落のアセスメント 学習や遊び等				

授業計画

No.	授 業 内 容
小児科病棟 (3 日) NICU (半日) 小児科外来 (半日)	1. 事前学習を提出する 2. 実習の進め方 1) 健康障害を持つ患児を受け持ち、小児及び家族を理解して家族を含めた看護援助について学ぶ 2) ケースカンファレンスを行い、看護援助について適切か検討する 3) NICU 見学を行い NICU の環境と看護師の役割を学ぶ。また、NICU に入室している児の特徴を知る。 4) 小児が受ける医療サービスの実際を学び、医療保健福祉の連携について学ぶ 5) 小児特有の診療の補助技術について学ぶ (安全安楽な技術) 6)
1 日 (学内)	1. リフレクションおよび課題学習を行う。 カンファレンスを行い各事例の学習を深める
履修の要件	
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学専門分野 小児看護学概論・臨床総論 医学書院 系統看護学専門分野 小児臨床看護各論 医学書院
成績評価の方法	小児看護学実習Ⅱ 評価表に基づいて、出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
母性看護学実習		恵原 知恵 有田 敏子		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	実習場所	学期	曜日	時限
実習	2 (80)	県立大島病院 名瀬徳洲会病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、助産師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	周産期における母子の特性を理解し、母性および新生児の看護に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。				
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥および新生児の特徴と正常な経過が理解できる。 2. 産褥および新生児の援助を体験し母性看護技術の特殊性が理解できる。 3. 受け持ち褥婦・新生児への健康課題を理解し、褥婦・新生児への援助・指導のあり方を学ぶ。 4. 母性看護を通して自己の母性観（父性観）を深めることができる。				
事前学習	妊娠期の看護、分娩期の看護、産褥期の看護、新生児の看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目～10 日目	1. 事前学習を提出する。 2. 実習の進め方 1) 1～2 週目は正常な経過をたどる分娩・産褥期の対象および新生児を受け持つ。 * 男子学生は女子学生とペアを組み褥婦と新生児を受け持つ。 褥婦のケアや観察で実施できない場合もあるので、女子学生と情報を共有する。 2) 機能別実習として外来（半日）実習や妊娠期の技術を見学および体験する。 3) 外来実習は1 日 1～2 名、半日実習とする。 4) 分娩見学 ・産婦の許可をもらい分娩見学の実施する ・産婦の許可をもらい帝王切開を見学する。
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅱ周産期各論 医歯薬出版 病気がみえる vol 10 メディックメディア
成績評価の方法	母性看護学実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学実習		濱田 秀子		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2 (80)	奄美病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	精神に障害のある対象について理解し、精神看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。				
到達目標	1. 精神科の治療環境・生活環境について理解できる。 2. 精神科医療の特徴が理解できる。 3. 対象の日常生活を観察し、精神障害が生活全般に与える影響について理解できる。 4. 精神に障害がある対象を理解できる。 5. 対象の日常生活行動を把握し、自立に向けて援助できる。 6. 対象が周囲の人々と交流が持てるよう援助する。 7. 行った援助を評価・振り返ることができる。 8. 対象との人間関係のあり方を通して自己の行動を振り返ることができる。				
事前学習	精神看護の目的と意義、精神保健医療福祉の法制度、 統合失調症／気分障害／てんかん／パーソナリティ障害 向精神薬の種類と主な副作用／多飲水／行動制限における看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目～10 日目	1. 課題を提示し、実習の事前学習を行う。 2. 実習内容 1) オリエンテーション 2) 1名の患者を受け持ち、ヘンダーソンの理論に基づいて看護過程を展開する。 3) プロセスレコードを活用し、対象との関わりを振り返る。 4) 5 日目～6 日目：受け持ち患者事例についてカンファレンスを行う 5) 10 日目：学内実習（事例の振り返りとまとめ） 実習を通して自己の学習課題を明確にする
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の展開 医学書院 はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程 医歯薬出版株式会社 看護学生のための精神看護臨地実習 NOTE 中央法規
成績評価の方法	精神看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合実習		学内教員		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2 (80)	県立大島病院 大島郡医師会病院	後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	看護チームの一員の体験、夜間実習、複数患者の受け持ちを通して知識・技術態度を統合して看護実践力を身に付ける。				
到達目標	1. 看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 2. 就寝前の患者の状況を知ることにより患者を総合的に理解する。 3. 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して実践できる。 4. 既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高める。 5. これまでの学習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を明確にする。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目～10 日目	実習の進め方 1) 実習内容 ①管理実習：看護管理について臨床講義 病棟管理者の役割 ②複数患者を受け持つ看護師のシャドウイング ③複数患者（2 名）を受け持つ実習 ④夜間実習 1 日 （14：30～21：30） ⑤夜間実習の振り返り ⑥1 日目、10 日目は学内実習 2) 1 グループ 5 名～6 名 教員は 1 名配置 夜間実習は教員は巡回指導 3) 複数受持ち以外のケアは原則として実施しない。 実習記録：実習計画、実習日誌、経過記録、看護管理レポート 他
履修上の要件	領域別実習はすべて履修していることが望ましい 統合演習ステップⅠ・Ⅱは履修していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院
成績評価の方法	統合実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	